

令和元年度病虫害発生予察特殊報第1号

令和元年 10月 11日
愛 知 県

- 1 病虫害名：ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith)
- 2 発生地域：東三河地域
- 3 発生確認の経過
侵入警戒のため、東三河地域に設置したフェロモントラップ(9月26日設置、10月8日回収)において、本種雄成虫の翅に似た斑紋を持つ個体が捕獲された(図1)。農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、本県未発生のツマジロクサヨトウであることが確認された。トラップを設置した地域周辺は、現在、キャベツが多く栽培されており、トウモロコシやソルガムの栽培は終了している。また、イネはすでに刈り取られている。
- 4 国内における発生状況
国内では、本年7月3日に鹿児島県で初めて確認されて以降、これまで熊本、宮崎、長崎、沖縄、大分、佐賀、高知、茨城、岡山、福岡、千葉、山口、愛媛、福島、神奈川、三重、広島、大阪の各府県で発生が確認されている。
- 5 本種の形態及び特徴
 - (1) 成虫の開翅長は約37mm、雄の前翅は地色が褐色、中央部に斜めの黄色斑紋と翅頂に逆三角形の白色斑紋を持つ(図1、2)。終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状に見える斑紋を持つ。また、尾部に黒色斑点を持つ(図3)。
 - (2) 国内の報告で幼虫の寄生が確認された植物は、サトウキビ、飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムに限られるが、その他のイネ科、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科など広範囲の作物に寄生することが知られている。
 - (3) 暖地に適応した種で、熱帯では年4～6世代発生する。暖地を除く地域では越冬することができない。
- 6 防除対策
 - (1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかることから、これらの作物については特にほ場を見回り、早期発見に努める。
 - (2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室まで連絡する。
 - (3) 本種の発生が確認された場合、ツマジロクサヨトウに対する農薬登録はないが、愛知県は植物防疫法第29条第1項の規定により薬剤散布の指導を行う。本種に対して使用できる農薬については、農林水産省HPを参照する(注)。
注：http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html
 - (4) 発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残渣をすき込む。

7 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
電話：0561-62-0085（内線 471）



図1 フェロモントラップで捕獲された
ツマジロクサヨトウ雄成虫



図2 ツマジロクサヨトウ雄（左）及び雌成虫（右）、農林水産省HPより引用



図3 ツマジロクサヨトウ幼虫、農林水産省HPより引用